

総合的な学習の時間 「手話歌ワークショップ」

川崎市立渡田小学校



単元（題材）目標

- 相手の立場を考えながら、様々な立場の人と進んで関わりをもつ。
- 今の自分を受け止めながら、自分にできることを大切にして、身近な人との関わりをもつ。

（1）実施時期

9月中旬

（2）対象（学年等・人数）

第4学年 157名 担任 5名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

外部講師 fucchiE（手話歌アーティスト） 淵上 卓司さん



（4）実施内容

- 今月の歌「にじ」に手話をつけて歌い、手話の意味を学ぶ。
- 外部講師作曲の歌に手話をつけて、一緒に身体を動かしながら歌う。
福祉単元「伝え合う心」の学習の中で、「困っている人の助けになりたい。」「助けになるためにどのような工夫が必要か。」「自分たちに何ができるか。」など、一人ひとりが課題をもった。そこで、実際に手話を活用して活動している外部講師と出会うことで、手話でのコミュニケーションの在り方を学んだ。

（5）成果

最初は、「手話を扱う方は、困っている人だ。」という思いをもっていた子どもたちも、講師と出会うことで「手話はコミュニケーションツールの一つなのだ。」と気づきが広がった。また、関わるということはどういうことなのかについて、改めて考える機会となり、「相手ときちんと向き合うこと」の大切さを学んだ。コミュニケーションをきちんと取るためには、眼を見て伝え合うことが大切であると気づき、今の自分にもできることがあるという自信につながった。

（6）その他

外部講師が、歌に手話をプラスする姿から、手話を使うことで関わる手段が増えることに気づき、「何かしてあげたい。」という気持ちから「自分たちもみんなが笑顔になれるように関わりたい。」という気持ちに変わり、感謝の会を開くという発想につながっていた。